

多くの人に支えられて

地震から一年。まだ、忘れられないあたたかさがある。ぼくは、地震発生時、スイミングのプールの中にいた。波が立ち、飲みこまれそうになった。その時、家族はいなかった。たよれるのはスイミングのコーチだけ。コーチは、ジャンパーを借してくれたりして、まるで家族のように守ってくれた。友達のお母さんはけいたい電話を借してくれた。つながったけれど、出なかった。ぼくは、考えてしまった。

「きつと、みんなの居る所は、古いおばあちゃんの家がちがいない。でも、もし家がくずれていたなら！」

なみだがこみ上げてきた。その時、不思議なことに、何も言っていないのに友達のお母さん、人は、

「だいじょうぶ」

と、言ってくれた。おたがいの気持ちを通じ

合った。ぼくも自分に、
「だいいじょうぶ」
と、何でも何でもくり返し言った。20分後、
お父さんが来て、
「みんな何ともない。裕治を家でまてい
よ」
と、言われた時、ホッとした。
帰り道ぼくは、思った。今回、ぼくは、多
くの人に支えられているということが分た。
ぼくも、コリチや友達のお母さんのように、
人を守ってあげられる大人になりたい。